

岡崎白川

院政の地「白河」をたどり観光地を歩く

12世紀になると、平安京は鴨川を越えて東へと伸びて行きます。現在、岡崎地区には美術館等の文化的施設が多く、琵琶湖疏水や寺社ならびに多くの別荘庭園が点在しています。

平安時代後期の白河上皇が院庁で政治を行う院政期になると、東国から京に入る人々に都ぶりを見せつけるような六勝寺等が建てられ、「白河」の地が整備されました。遺跡の地を巡り、京都観光のメッカともいえる岡崎・白川の風光明媚な見所を歩きます。



琵琶湖疏水に架かる慶流橋と東山



左：北垣国造像 右上：田辺朝郎博士像 右下：東山三條の琵琶湖疏水

ひびこすい 琵琶湖疏水
明治の京都近代化政策における最大の基幹事業として実施された、琵琶湖から京都市内までの全長11.1kmの運河。第3代京都府知事北垣国造が計画し、田辺朝郎が総責任者となって建設されました。現在平安神宮、美術館、岡崎公園などの文化ゾーンを囲むように流れる琵琶湖疏水周辺は、四季の変化に富んだ疎水の景色と赤煉瓦建物の近代産業遺産が共存し、付近に六勝寺跡や院御所跡の石碑が散在しています。

ろくしょうじ 六勝寺

六勝寺とは、平安時代後期つまり院政期、天皇や中宮の発願で鴨川東岸の白河(現左京区岡崎)の地に建立された六つの寺院をいいます。いずれも寺号に「勝」の字を持つため、総称して六勝寺と呼ばれています。六勝寺は、鎌倉時代までは再建や修理が繰り返されましたが、応仁の乱(1467~1477年)以後に廃絶しました。現在はその跡を示す石碑や説明板が残るのみです。(最勝寺跡の石碑は現在、所在不明です)

寺号	発願者	完成年
1 法勝寺	第72代 白河天皇	1077年
2 尊勝寺	第73代 堀河天皇	1102年
3 最勝寺	第74代 鳥羽天皇	1118年
4 円勝寺	待賢門院(鳥羽天皇の中宮)	1128年
5 成勝寺	第75代 崇徳天皇	1139年
6 延勝寺	第76代 近衛天皇	1149年



1 法勝寺跡(京都市動物園内) 2 尊勝寺跡 4 円勝寺跡 5 成勝寺跡 6 延勝寺跡(石碑は2ヶ所)



ちおんじ 知恩寺
法然の弟子源智が住持した専修念仏道場。第8世善阿空圓が疫病封じの百萬遍念仏を修し、後醍醐天皇から「百萬遍」の号を賜りました。境内では手作り市や、古本まつりも開催されます。

よしだじんじや 吉田神社
奈良春日大社の四神を勧請し、平安京の鎮守神として吉田山に創建された神社。境内には天神地祇八百万神(あまつかみにつかみやおよろずのかみ)を祀る齋場所の大元宮をはじめ、料理の神を祀る山蔭神社、お菓子の神を祀る菓祖神社等多彩な末社があります。



珍しい八角形の大元宮本殿(重要文化財)

おたかきじんじや 岡崎神社
桓武天皇が平安遷都に際し、王城鎮護のため四方に祀った大將軍社の一つとされます。氏神の御使としてうさぎが祀られ、多産であることから子孫、安産の神としても信仰されています。

しらかわきなどあつと 白河北殿址(京大熊野寮内)
白河上皇の院御所で、南殿に対して北殿や北新御所と称されました。保元の乱では崇徳上皇側の本拠地となりましたが、平清盛らの軍勢によって焼失しました。

しらかわきなどあつと 白河南殿(蓮華蔵院)跡
白河上皇の院御所で、白河泉殿とも称されました。敷地の西には、蓮華蔵院の前身となる阿弥陀堂も建立されました。

とくちうじゆいんあつと 得長寿院跡
鳥羽上皇の御願寺で、平清盛の父、忠盛が建立しました。東山七条の蓮華院(三十三間堂)と同規模の千体観音堂でした。



しらかわいんあつと 白河院址
藤原家から白河天皇へ献上され、のちに法勝寺となりました。(京都市指定名勝庭園)

しらかわいんあつと 白河院址

インクライン
琵琶湖疏水による舟運の一区間に設けられた581.8m(世界最長)の傾斜鉄道。1948年にその役目を終え、運転を休止しました。(国史跡に指定されています)

インクライン

ねじりまんぼ
強度を保つため、煉瓦をねじって積み特殊な技法が用いられたトンネルです。

ねじりまんぼ

ひびこすいきんかん 琵琶湖疏水記念館
京都市が琵琶湖疏水竣工100年を記念し、1996年に開館しました。(無料)

ひびこすいきんかん 琵琶湖疏水記念館

なんぜんいん 南禅院
龜山天皇の離宮の遺跡であり、南禅寺発祥の地。当時の面影を残す池泉回遊式庭園があり、天龍寺、西芳寺とともに京都三名勝史跡庭園の一つに数えられています。(国指定史跡・名勝)

なんぜんいん 南禅院

しせき ひびこすい 史跡 琵琶湖疏水水路閣
南禅寺の境内に建つ煉瓦造りの水路閣。美しいアーチを描く全長約93mの橋は、ローマ帝国の水道を参考に田辺朝郎の設計により1888年に建築されました。水路閣は現在でも水を運ぶ疎水として活用され、京都の代表的な風景の一つになっています。(国指定史跡)

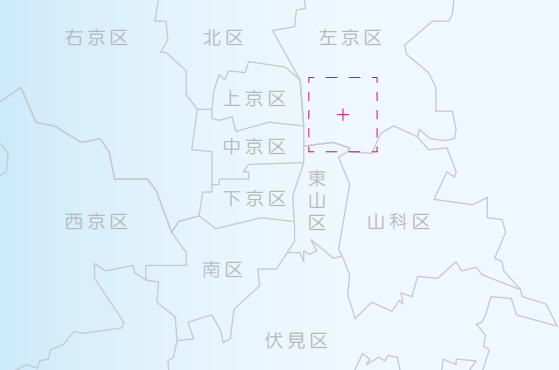
しせき ひびこすい 史跡 琵琶湖疏水水路閣

岡崎 白川

～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・勅京都市埋蔵文化財研究所



岡崎 白川周辺の発掘調査

比叡山麓を源に西へ流れる白川の扇状地からは、弥生時代から古墳時代にかけての自然流路が多数みつかっています。扇状地には、いわゆる白川砂が厚く堆積し、東山を背に白川が流れる風光明媚な地であり、平安京から東方の東海道・東山道を結ぶ交通の要所でもあります。このため、平安時代前期から藤原良房の白河殿など、貴族の別業が営まれました。藤原道長は、この白河殿でしばしば観桜の宴などを催しています。孫の藤原師実の時、ここを白河天皇に献上、白河天皇の御願により、師実の実兄覚円を別当とした法勝寺が造営されます。それを契機として周辺が区画整理され、次々と上皇、天皇やその後の御願寺や院御所が建てられていきます。御願寺にはそれぞれ「勝」を寺名に用いたため、総称として六勝寺と呼ばれました。鎌倉時代、後鳥羽上皇が御所を造営した際に岡崎御所と称して以降、この一帯を岡崎と称するようになり、次第に宅地化も進み白川の北側地域も含め、白河街区と呼ばれるようになりました。

1 吉田泉町遺跡

京都大学西部構内を中心とした、中世の邸宅跡で、泉殿をも含んでいます。発掘調査では、12世紀後半の屋敷跡を検出しています。出土する遺物からは輸入陶磁器が多くみついていることや、建物の構造からも、この屋敷跡は武士の館跡であると考えられます。



2 慈照寺(銀閣寺)

足利義政が晩年隠棲した如意ヶ岳西麓の浄土寺域に構えた山荘・東山殿を、義政死後寺院に改めたものが慈照寺です。発掘調査では、石垣や石垣に伴う石組溝、石製の導水施設、石敷きの暗渠等を発見しています。また建物跡や門跡の調査も行っています。



法勝寺

法勝寺は六勝寺の筆頭寺院で白河天皇の御願により、承和2(1075)年に造営を開始しました。承暦元(1077)年には金堂・講堂・阿彌陀堂・南大門・西大門・築地など主要な伽藍の落慶供養が行われ、永保元(1081)年には塔の造営が始まり、永保3(1083)年に落慶供養が行われました。塔は高さ約81mの八角九重で金堂の南の池の中島に建てられました。この法勝寺のあった場所は現在の京都市動物園からその北側に位置します。発掘調査では、金堂基壇西縁延石と金堂北西部の礎石据付穴を、金堂の東軒回廊北東部の礎石据付穴や北縁雨落溝を発見しています。また、八角九重の塔地業や圓池を発見するとともに、その工法も明らかとなりました。遺物も多く出土し、梵字文瓦や鬼瓦、土製円塔等みつかっています。



5 尊勝寺

尊勝寺は白河天皇の子、堀河天皇の御願により造営され、康和4(1102)年に落慶供養が行われました。現在の京都府会館一帯に位置します。六勝寺の中でも、発掘調査が最も進んでいるところで、京都府会館の建設に伴い最初の発掘調査が実施され、建物3棟・雨落溝を発見し、その後九鉢阿彌陀堂・西塔・五大堂・観音堂や寺域西築地、寺域北限の溝等を発見しています。また、竈跡もみつかっています。京都府会館でみつけた建物は、金堂とそれに取り付く回廊、および東塔と考えられています。また京都府会館の西方からは、九鉢阿彌陀堂跡がみつかっています。



6 尊勝寺(九鉢阿彌陀堂跡)



7 最勝寺

法勝寺の西側、現岡崎グラウンド一帯が最勝寺の位置にあつたります。発掘調査では、寺域の南限の築地跡をみつけていますが、主要な伽藍についてはまったくみつかりません。



8 白河北殿

保元の乱の舞台となった白河北殿は、白河上皇の御願により元永元(1118)年に供養された院御所で、北新御所と呼ばれていました。発掘調査では、北殿域の南辺で建物1棟みつかりました。



9 白河南殿

白河上皇の御願により、嘉保2(1095)年に院御所として白河南殿(白河泉殿)を、前大僧正覚円坊舎地に建立されました。院御所に付属して、蓮華蔵院と呼ばれる寺院が造られます。発掘調査では、殿内の北中央部で建物1棟と北側の回廊を、殿域西部では2棟の建物が見つかりました。



白河地区その他

尊勝寺跡の北方では、建物の基礎地業の南西部が発見されています。地業は深さ約1mの間に砂泥層と川原石を交互に敷きつめた層が5層確認できました。みつかった遺物から、12世紀の後半に造られたものと思われる。また、延勝寺跡推定地では井戸や区画溝を発見し、多くの瓦類とともに白色土器や輸入陶磁器がみつかっています。



岡崎遺跡

六勝寺跡を中心に、その下層には弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡があります。一帯から方形周溝墓や竪穴住居、掘立柱建物、古墳等が発見されており、同時に様々な遺物もみつかりました。また、旧石器時代と思われる自然流路からは白樺等の流木が、火山灰層上面では大型の偶蹄類と推測される動物の足跡等もみつかりました。



14 南禅寺

南禅寺は、亀山上皇が正応4(1291)年、禅林寺殿を寺に改め、当時80歳の無閑普門を開山として、これを龍安山禅林寺と名づけたことに始まりますが、間もなく無閑は死亡し、南禅寺伽藍の建設は実質的には二世住職の規庵祖円が指揮し、永仁7(1299)年頃に寺観が整いました。当初の「龍安山禅林寺」を、「太平興国南禅寺」という寺号に改めたのは正安年間のこととされます。発掘調査では中世の庭園遺構や、盛土によって造営された参道と、石組みの溝などがみつかりました。



岡崎・白川周辺の発掘調査地分布図



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ

